

牛伝染性リンパ腫の検査に関する研究

研究期間：2023年4月～2024年3月



農学部動物科学科 小林朋子 准教授
獣医学関連
✉tk205370@nodai.ac.jp

キーワード

- 牛伝染性リンパ腫
- 牛伝染性リンパ腫ウイルス
- クローナリティ



研究の背景と目的

牛伝染性リンパ腫とは、牛伝染性リンパ腫ウイルス (bovine leukemia virus : BLV) により全身性のリンパ腫が形成される病気で、近年発生数が増加しています。この病気には特徴的な症状がなく、原因不明のまま生産性が低下していくことが問題となっています。そこで、本研究では牛伝染性リンパ腫発症牛を簡単に検査できるような技術の開発を目的としました。

展開可能性 (他領域・社会にどのようなインパクトを与えるか)

牛伝染性リンパ腫による損失は年間30億円以上とされています。本研究成果が広く普及することにより発症検査の実施が可能となり、牛伝染性リンパ腫による損失を低減することができます。

シーズの特徴

- 特徴1 牛伝染性リンパ腫の検査方法の開発
特徴2 クローナリティを利用したリンパ腫の検査
特徴3

PR・マッチングに関する要望

関連情報 (URL) http://dbs.nodai.ac.jp/html/100000872_ja.html
<https://kobatomolab.com/>

研究業績・研究室 (URL)

企業：株式会社ニッポンジーン

